

Title	TAT検査における検査状況の効果
Sub Title	Situational influence on the TAT response
Author	黒田, 浩司(Kuroda, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1986
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.26 (1986.) ,p.17- 22
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000026-0017

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

TAT 検査における検査状況の効果

Situational Influence on the TAT Response

黒 田 浩 司
Hiroshi Kuroda

This study involved the projective measurement of experimentally induced level of sex motivation and alcohol drinking. Under the experimental condition sexual motivation was aroused by pornographic video and under control condition slides of street scenes were used. The TAT stories were analyzed for manifest sexual imagery.

The results showed that under normal conditions sexually aroused Ss expressed less sexual responses in the TAT stories than did the control groupe. Under conditions of alcohol these results were just the reverse. Sexually aroused Ss showed significantly more sex responses and the contents of sex responses were more abnormal. Ss acquainted with E express more sex responses than strang Ss. Sexual imagery in the TAT stories should be interpreted in consideration of various situational influences.

TAT は投影法の心理検査である。投影法とはまさに投影 (projection) という自我機能のコントロールがあまり働かない状況において、その人らしい反応がより生の形で得られるとされている。しかし投影法の心理検査においては被験者の反応が生ずる過程や検査者が解釈をおこなう過程があいまいであり、その解釈が科学的でないという批判も多く示されている。また、被験者の示す反応が本当に被験者の投影によるものなのか、それとも検査状況や検査前の体験・経験や検査者の言動によって引き出されたものなのかの区別がはっきりしていない。ロールシャッハ・テスト、PF 検査などにおいては反応の処理・整理方法が標準化されており、検査状況・検査施行方法の効果などの実験的な研究が多くおこなわれているが、TAT においては共通の解釈法が明確でなく、検査状況などを扱った研究は非常に少ないのが現状である。

本研究においては TAT 検査における検査状況の効果を検討する。TAT 検査を施行する前に性的な arousal を高めることによって、また検査時にアルコールを飲用していることによって物語の中にみられる性的な反応の

頻度がどのように変化するかを検討する。心理検査における性的な反応の解釈については議論の多いところである。ロールシャッハ・テストにおいては性反応 (sex) は通常の検査場面において正常成人に見られることはほとんどなく、精神分裂病患者にやや多く見られ、(I) 性的な悩みの存在や性的関心の強さ、(II) 社会的規範の無視、(III) 退行の機制を示すとされている(高橋・北村, 1981)。しかし、一方で性反応は被験者が検査者の友人である場合にも生じやすくなるとされており(高橋・北村, 1981)、また検査者と被験者の性別の組み合わせによっては性的な反応が促進されたり、抑制されたりすることも示されている(Curtis & Wolf (1951), Clark (1952), Rabin, Nelson & Clark (1954))。また、性的な欲求を実験的に喚起させた Clark (1952), Rabin, Nelson & Clark (1954) では、性反応は性的な欲求を喚起させることによって単純に増加するわけではなく、被験者の罪悪感の程度や検査者の性別によって様々に異なってくるが示されている。

本研究は基本的には Clark (1952) のパラダイムにのって実験をおこなったが、Clark が独立変数としては

もちいなかった検査者と被験者の関係（親密度）を新たに変数として加え、さらに反応の内容や反応開始時間などに関しても分析をおこなった。

方 法

1. 被験者

100名の男子大学生が被験者として本実験に参加した。被験者の年齢は19～26歳（平均21.7歳，標準偏差1.16）。被験者全員がTAT検査を初めて受けるナイーブな被験者であり，TAT検査に関する若干の知識を有する被験者も何名か含まれているが，TAT物語の解釈法などについては何の知識も持たない被験者である。100名の被験者のうち80名は検査時に初めて検査者と面識をもつ，検査者との親密度の低い被験者であり，残りの20名は検査者と同じ研究室・実験室に出入りをしていたり，検査者が実験指導などをおこなったことのある，検査者との親密度の高い被験者である。

2. 刺激

非性的刺激：道路風景のスライド10枚。

性的刺激：ポルノ・ビデオの性的な場面（4場面）を編集したビデオ（所要時間約10分）。

検査刺激：マーレー版のTAT図版より3FG, 4, 6BM, 10, 13MF, 14の6枚の図版。

3. 手続き

被験者100名のうち検査者との面識のない被験者80名は20名ずつ，S条件，SB条件，V条件，VB条件の4グループに分けられる。検査者との面識のある20名の被験者はF条件とされ計5つのグループがつけられた。各条件における実験手続は

(1) S条件（スライドのみ条件）

被験者は道路風景のスライド10枚について評定をした後にTAT検査を施行される。スライドは一枚ずつ呈示され，被験者はTable 1に示されている20形容詞がその風景にどのくらいよくあてはまるかを5段階で評定する。

(2) SB条件（スライド・ビール条件）

被験者はS条件同様にスライド10枚の評定をおこなっ

た後にTAT検査を施行されるが，スライドを評定する前に検査者は被験者にビールを出し，「まあビールでも飲みながら気楽に評定して下さい」と伝え，被験者はビールを飲用しながら評定をおこなう。ビールの飲用はTAT検査終了までの約40分間で大ビン2本（約1300cc）以内とされ，飲用のペースは被験者自身に任せた。

(3) V条件（ビデオのみ条件）

被験者はポルノ・ビデオの性的な場面の評定をおこなった後にTAT検査を施行される。性的な場面4場面は一場面ずつ呈示され，各場面を呈示し終わったところでTable 1の20の形容詞がその場面全体の感じにどれくらいよくあてはまるかを5段階で評定させた。

(4) VB条件（ビデオ・ビール条件）

被験者はV条件同様にビデオで性的な場面の評定をおこなった後にTAT検査を施行されるが，SB条件と同様にビデオの場面を評定する際にビールを飲用する条件で実験をおこなった。ビール飲用の条件・状況はSB条件に準ずる。

(5) F条件（お友達条件）

この条件は被験者が検査者と親密度の高い被験者が実験に参加すること以外はS条件と同じである。

TAT検査はスライドあるいはビデオの評定の終了後すぐに実施された。6枚のTAT図版の呈示順序はラテン方格配置にもとづくランダムな呈示順とされた。TAT検査の教示は以下のようなされた。

教示：これからあなたに6枚の絵を見せます。その絵をみてお話をつくってください。6枚全部の絵で続いたお話をつくる必要はありません。絵をみて心に浮かんだ通りにお話をつくって，話して下さい。

TAT物語は被験者が口頭で話し，テープ・レコーダーに録音された。被験者の反応に対して検査者は結末や未来（これからどうなりますか）や登場人物に関する質問（この人はどんな人ですか）はなるべくさしひかえたが，被験者の反応が単純な状況説明にとどまった場合，例えば図版3FGで「女の人がドアのところで泣いている」で反応が終了してしまった場合には「もう少し詳しく説明してください」と教示を付け加えた。

Table 1. 評定にもちいられた形容詞

1. 日常的な	2. 男性的な	3. きれいな	4. 粗雑な
5. 明るい	6. にぎやかな	7. やさしい	8. きめの細かい
9. 恐ろしい	10. 清潔な	11. 人情味のない	12. おとなしい
13. 恥しい	14. 刺激的な	15. おごそこな	16. 健康な
17. 汚れた	18. 知的な	19. 近代的な	20. 道徳的な

ビール飲用量は実験の変数としてコントロールすることはできなかったが、飲用量の少ない被験者で約400cc、多い被験者で約1300ccとなった。SB条件、VB条件においてビール飲用を拒否した被験者は一名も見られなかった。

結 果

(1) 性反応の頻度について

各条件において、各被験者がそれぞれの図版のTAT物語のなかで性反応を示したかどうか判定された。性反応の操作的な定義としては

- [1] 男女の性交状況を直接的あるいは間接的に表現したものの。
- [2] 同性愛、自慰、性的倒錯、窃視、フェティシズムの状況を表現したもの。

とし、単なる親愛の情をこめた抱擁は登場人物がいかなる場合においても（例え夫婦・恋人同志であっても）除外した。また、被験者の反応が性的なものであるのか、それとも性交などをとまなわぬ親愛的なものであるのかがあいまいな場合には、その点が明らかになるように実験終了後被験者に質問した。一つの図版において二つ以上の物語を示す被験者も若干名見られたが、性反応を一つの図版で二つ以上示す被験者は見られなかった。6図版中いくつかの図版において性反応を示したかが各被験者の性反応の頻度とされた。

Table 2 は各条件における性反応の平均頻度と、その組み換え法（試行数1000回）による検定の結果である。組み換え法とは分布を仮定しない特殊な検定法であり、詳細は Diaconis & Efron (1983), 中谷 (1983) を参照されたい。今回の実験においては従属変数が0から6までの整数という特定の値しかとらないためこの検定法をも

ちいた。SB条件ではS条件の1.5倍の性反応が見られておりビール飲用によって性反応が促進される傾向がみられたが有意差を示すには至っていない。ビデオによって性的な欲求が喚起されたV条件では有意差はみられないものの、性反応が抑制される傾向がみられている。一方、性的な欲求を喚起されて、なおかつビールも飲用していたVB条件においては他の条件に比較して性反応の頻度が高く、SB条件以外のすべての条件との間に有意差がみられた。ビデオ観察によって高められた性的欲求がTAT物語のなかで表現されるかどうかはビールを飲用するかどうかによって大きく異なってくることが示された。F条件においてはほぼSB条件と同様の数値が得られ、検査者と被験者との親密度が高いということは性反応を促進し、ビール等のアルコール飲用が検査者と被験者の親密度を高めるのと同様の効果をもたらすといえる。

Table 3 は各条件において性反応を示した被験者数を示したものである。ここで興味深い点はSB、VB、F条件とも性反応を示した被験者数はほぼ等しく、SB、F条件においては被験者が性反応を示したとしても1～2回なのに対してVB条件においては2～3回示す被験者が多いということである。つまりこれはビール飲用条件において性的な欲求を喚起させられている場合には性反応を示す被験者が増大するだけでなく一被験者あたりの性反応の頻度も高くなるといえる。

Table 4 には各図版における性反応数の内訳が示されている。ここから明らかなのは13MFカードにおいて多くの性反応がみられることと、SB、VB、F条件においては13MFカード以外の図版で性反応がみられるようになってきていることである。

Table 2. 各条件において性反応の平均数とその検定

条 件	平均性反応数	組み換え法による検定結果 (有意水準)				
		S	SB	V	VB	F
① S 条件	0.75					
② SB条件	1.10	0.076				
③ V 条件	0.50	0.280	0.018			
④ VB条件	1.50	0.031	0.183	0.004		
⑤ F 条件	1.05	0.132	0.485	0.047	0.182	

** p<0.01 * p<0.05

Table 3. 各条件において性反応を示した被験者数

条 件	性反応なし	性 反 応 あ り				計
		1 回	2 回	3 回以上	計	
① S 条件	10	6	4	0	10	20
② SB条件	6	7	6	1	14	20
③ V 条件	12	6	2	0	8	20
④ VB条件	7	3	5	5	13	20
⑤ F 条件計	7	7	4	2	13	20
	42	29	21	8	58	100

(単位：人数)

Table 4. 各図版における性反応の出現数

条 件	図 版						計
	3 FG	4	6 BM	10	13MF	14	
① S 条件	0	2	0	3	10	0	15
② SB条件	1	3	0	5	13	0	22
③ V 条件	0	2	0	2	6	0	10
④ VB条件	3	6	1	5	13	2	30
⑤ F 条件	1	3	0	5	12	0	21
計	5	16	1	20	54	2	98

(2) 性反応の内容について

Table 5 に示されているのは各条件において TAT 物語の中にみられた性反応を性的倒錯、同性愛、フェティシズムなどの表現が含まれるアブノーマリティの高い性反応と通常の性反応にわけた結果である。ここで注目す

Table 5. 性反応の内容

条 件	アブノーマリティの高い性反応	通常の性反応	計
① S 条件	1	14	15
② SB条件	5	17	22
③ V 条件	0	10	10
④ VB条件	14	16	30
⑤ F 条件	4	17	21
計	24	74	98

べき点はアルコール飲用条件 (SB, VB) においてアブノーマリティの高い性反応が多くみられており、その傾向はVB条件において特に顕著である。F条件においてはVB条件ほどではないがやはりアブノーマリティの高い性反応が多く示されるようになっている。アブノーマリティの高い性反応はS条件、V条件ではほとんどみられていない。また、V条件においては通常なら多くの性反応が得られる13MFカードにおいても性反応を示す被験者は少なく、肉親や近親者の死や病気などのテーマの物語が他の条件に比較して多くみられた。以上のことは通常なら抑制されしまうような性反応がアルコール飲用時や検査者と被験者の間柄が親密な場合にはあまり抑制されずに表出されることを推測させる。

(3) 反応時間について

図版を被験者に呈示してから被験者が物語を話し始めるまでの時間を反応時間として分析をおこなった。Fig. 1 に示されているのはF条件を除く各条件の平均反応時

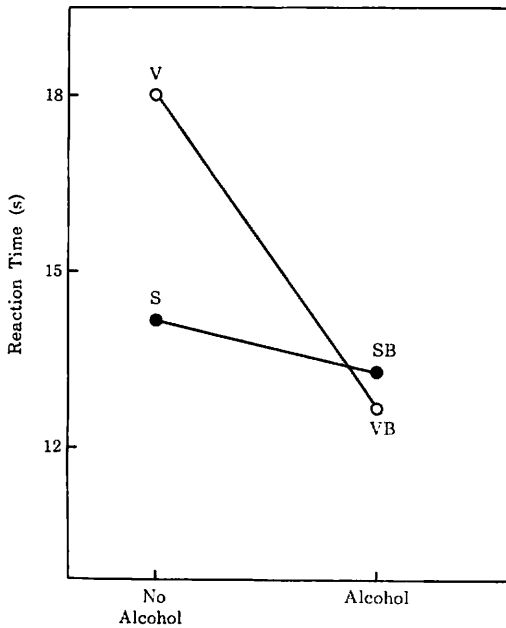


Fig. 1. 各条件における反応時間

間をプロットしたものである。このグラフからも明らかのように通常はスライド条件よりもビデオ条件の方が反応時間が長く、各条件ともビールを飲用することによって反応時間が短縮される傾向があり、その程度はスライド条件よりもビデオ条件の方がより顕著である。このことは Table 6 に示される分散分析からも明らかであり、先行刺激条件（スライドかビデオか）とアルコール条件に有意な主効果が生じており、この2要因の交互作用が有意差を示している。また分散分析の結果、図版に有意な主効果が認められる。これは13MFカードが他のカードに比較して反応時間が長いことを反映している。

反応が性反応であるかどうかによって反応時間の相違を比較したところ、S条件では性反応の方が反応時間は長いがSB条件では逆の傾向を示し、V条件では非性反応の方が反応時間が長いがVB条件では逆に性反応の方が反応時間が長くなるなど複雑な傾向がみられた。

考 察

本研究の結果、以下のことが明らかとなった。

- (1) TAT 検査時にアルコールを飲用している場合、TAT 物語の中に性的な反応を示す被験者が多くなる。
- (2) TAT 検査の前に被験者に性的な刺激を見せると、TAT 物語の中に示される性的な反応はかえって抑制され、性的な反応を示す反応を示す被験者は少なくなるが、同時にアルコールを飲用している場合には性的な反応は促進され、被験者はより多くの性的な反応を示すようになる。
- (3) 検査者と被験者の親密度が高い場合には、被験者がアルコールを飲用している場合と同様に性反応が促進される。
- (4) TAT 検査時にアルコールを飲用していることは性反応の出現を促進するだけではなく、反応の質的な部分にも変化をもたらし、性反応の内容のアブノーマリティが高くなる。
- (5) アルコール飲用は反応開始までの所要時間を短縮する。ただしこれは TAT 図版や反応が性反応であるか非性反応であるかなどの種々の状況によって異なってくる。

これらの結果は Clark (1952) などの従来の結果とよく合致しており、実験的に被験者の性的な欲求を喚起することによって性反応は単純に増大するのではなく、検

Table 6. 反応時間による分散分析

要 因	平方和	自由度	平均平方和	F 値	
A : スライド・ビデオ	310.21	1	310.21	5.90	$P < 0.05$
B : アルコール	1116.20	1	1116.20	21.22	$P < 0.01$
C : 図版	6136.55	5	1227.31	23.33	$P < 0.01$
交互作用					
A × B	567.85	1	567.85	10.80	$P < 0.01$
A × C	100.76	5	20.15	0.38	
B × C	486.13	5	97.20	1.85	
A × B × C	82.91	5	16.58	0.32	
誤 差	23984.60	456	52.60		
全 体	32785.20	479			

査状況や被験者の性格特性、検査者との間柄などによってさまざまな様相を呈してくると言える。Clark (1952) や Rabin, Nelson & Clark (1954) は罪悪感の観点から考察している。心理検査における性反応の意味というのは冒頭でも述べたが、議論の多いところである。しかし、性反応に関する実証的な研究は数少なく、意味追求が現在の研究の中心となっている。今後は被験者の反応が生じてくるメカニズムを解明し、様々な状況を考慮した moderate な解釈法を検討していくことも必要であろう。

要 約

100 名の男子大学生に通常の条件あるいはアルコールを飲用している条件において、(1) 道路風景のスライドを観察する、または (2) ボルノ・ビデオを観察した後 TAT 検査を施行した。その結果、通常の条件では TAT 検査前にボルノ・ビデオを観察すると性的な反応はかえって抑制されるが、同時にアルコールを飲用していると性的な反応は促進され、性反応の内容も性的倒錯やフェティシズムなどのアブノーマリティの高いテーマが多く含まれる傾向がみられた。また、アルコールを飲用していなくても被験者が検査者と親密な場合にはやはり性的な反応が促進されることが示され、TAT 検査において性的な反応の解釈をおこなう場合には検査前の経験や検査状況、検査者と被験者との関係などを十分に考慮する必要があるといえる。

References

Bernstein, L. 1956 The examiner as an inhibiting

factor in clinical testing. *Journal of Consulting Psychology*, 20, p. 287-290.

Clark, R. A. 1952 The projective measurement of experimentally induced levels of sexual motivation. *Journal of Experimental Psychology*, 44, p. 391-399.

Curtis, H. S. & Wolf, E. B. 1951 The influence of the sex of the examiner on the production of sex responses on the Rorschach. *American Psychologist*, 6, p. 345-346.

Diaconis, P. & Efron, B. Computer-intensive methods in statistics. *Scientific American*. (松原望(訳) コンピューターがひらく新しい統計学サイエンス, 日本経済新聞社, 1983, 7月号, p. 58-75.)

Galbraith, G. G. & Mosher, D. L. 1970 Effects of sex guilt and sexual stimulation on the recall of word associations. *Journal of Consulting & Clinical Psychology*, 34, p. 67-71.

岩脇三良 1973 心理検査における反応の心理 日本文化科学社

片岡安史 1974 新・心理診断法 金子書房

中谷和夫 1983 組換え法による平均値の差の検定—パソコン利用のモテカルロ統計—. *Planet*, 2, p. 13-18.

Rabin, A., Nelson, W. & Clark, M. 1954 Rorschach content as a function of perceptual experience and sex of the examiner. *Journal of Clinical Psychology*, 10, p. 188-190.

高橋雅春・北村依子 1981 ロールシャッハ診断法 I, II サイエンス社

山本和郎 1984 人間理解と認知—心理臨床家のアセスメント過程— 大山正・東洋(編) 認知心理学講座 第1巻 認知と心理学 東京大学出版会 p. 219-245.